

# ボールパーク構想と連携したまちづくり



北広島市



## 北広島市のボールパーク構想

未整備公園をきっかけとした官民連携プロジェクトとしてボールパークを整備することで、北広島市のアイデンティティを高め、未来の担い手となる居住者や企業立地を促進しながら、持続的な都市経営と社会課題の解決を図る地方都市の再生モデルの実現を目指す構想

今年3月、北広島市に北海道日本ハムファイターズの新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」を含むボールパーク「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE」が開業しました。

このボールパークは、プロスポーツの試合観戦という役割だけではなく、子供の遊び場、商業施設、グランピング、農業学習施設などの様々な機能を備えており、多くの人々が集い、交流を育む場所になることを市は期待しています。

市では、官民連携プロジェクトとして、新球場を核としたボールパークを整備することで、まちづくりの様々な分野に波及効果を生み出し、持続可能な都市経営と地域課題の解決を図るボールパーク構想を推進しています。ここでは、市のボールパーク構想と連携したまちづくりについて紹介します。

## —— 新たな賑わいと交流拠点の誕生

### お話を伺った方



左から 北広島市 企画財政部企画課 村上主査  
熊谷主査  
経済部ボールパーク連携推進室 万丈主査



### 北広島市の現状と課題

札幌市と新千歳空港の中間に位置する北広島市は、JR札幌駅まで約16分というアクセスの良さを持ちながら、豊かな緑の環境を保持するなど、自然と利便性の高い都市機能が調和する魅力的な環境を有する一方で、他の市町村と同様に急速な少子高齢化、人口減少による活力低下や、また、5つの生活圈で形成される地区の分散と都市機能の不足、それによる人口流出が生じているなど、地域特有の課題があります。



### ボールパーク誘致の経緯

平成27年10月、市は未整備となっていた総合運動公園予定地の活用のため、プロ野球の2軍試合の誘致を念頭に、総合運動公園の中に硬式野球ができる施設規模の野球場を建設することを検討していました。

そうした施設規模のヒアリングのため、北海道日本ハムファイターズとの意見交換を行ったことがきっかけとなり、野球を観戦するためのだけの施設ではなく、球場を核としたまち「ボールパーク」を作りたいという球団の意向と「Sports Community」を掲げる企業理念を受け、新球場を核に賑わいや交流を創出するエリアとなるボールパークの整備を契機として地方創生を図ることが、市の目指す都市像の実現に大きく寄与すると考え、ボールパーク誘致を表明しました。その後、球団側と約17回の実務者協議を重ね、まちづくりへの想いを共有し、両者の想いが合致したことで、平成30年3月に予定地として内定しました。



### ボールパークに期待される役割

ボールパークの施設整備は球団、その周辺の道路等のインフラ整備は市が役割を担いながら連携して進めていき、今年3月に開業となりました。

今年3月に開業したばかりのボールパークですが、プロスポーツの試合観戦という役割だけでなく、北海道、地域のシンボルとして、多くの人々がまちに集い、交流を育む場所として、今後のまちづくりにおいて重要な役割を担っています。

ボールパーク内には、屋内外に遊具が備えられた子供の遊び場、北海道らしい自然を感じながらグランピングや



▲屋内外に備えられた子供の遊び場は、天気を気にすることなく遊ぶことができ、家族が試合を見ている間に利用するなど、様々な活用されている。

▼広大な敷地内には、子供のプレイグラウンドやグランピング施設、認定こども園などがあり、一つの村のようになっている。



サイクリングなどの体験型観光ができる施設、農業学習ができる施設など、野球以外の目的で訪れた人も滞在できる環境となっており、試合のない日も、1日約5千人〜1万人が来場するなど、これまで新千歳空港までの通過地点だったまちに、多くの人が滞在することで、すでに多くの賑わいが生まれています。

今後、市民と市外から訪れた人たちが一緒に取り組めるボランティアイベントなども開催していくなど、ボールパークが新たな交流が生まれる場となることを期待しています。

様々な分野で球団との連携事業も進めており、学校教育の分野では、市内の小中学校全校で、元選手の球団職員による子供たちの走力向上や、基礎運動能力を伸ばす体育授業を行う取組、プロ野球を通して幅広い経験をさせた元選手によるキャリア教育授業などの取組を連携して実施しています。そのほか、選手の管理栄養士による子育て世代への食育講演会など、双方の発展につながるような取組も実施しています。こうした特色ある教育環境の提供やスポーツ機会に近い健康的なライフスタイルの提供により、市民、そして子供達が地域に誇りと愛着を感じるまちを目指しています。

また、北海道、球団と防災に関する覚書を締結し、球団がボールパークの中に防災備蓄倉庫を整備し、市の広域避難場所での活用のほか、道内で災害

**球団との連携によるまちづくり**

市はボールパーク構想と連携したまちづくりを総合計画の中に盛り込み、一体的に推進することで、市民の健康増進、雇用の促進、公共交通の整備、JR新駅の整備など交通機能や産業機能の充実をめざすこととしています。球団を含めた官民連携による取組や、全庁横断での取組など、様々な施策により、ボールパークを核としたまちづくりを進めています。

## オール北海道で波及効果を生み出す

**活性化を進める 駅西口周辺エリア**

▶北海道ボールパークFビレッジへのアクセス機能整備と駅周辺エリアの魅力と価値の向上を目指し、官民連携で駅周辺エリアの高度利用を図り、地域課題解決に向けて施策を進めている。



イメージ図提供：(株)日本エスコ

今後、周遊策として、ボールパークを起点とした圏域市町村を巡る広域サイクルイベントなどを周辺に促す試みも圏域市町村と連携して取り組む予定です。将来は、道内広域にも波及効果を生み出していくために、オール北海道で取り組むことも視野

が起きた際に被災地に分配できるように北海道の備蓄品も備えるなど、防災拠点としての役割を官民連携で担っています。

**近隣市町村との連携**

多くの賑わいから地域の活性化を生み出すボールパークの効果を周辺市町村にも波及させるため、ボールパークを通じた道内各地の活性化をテーマに「オール北海道ボールパーク連携協議会」による広域連携体制を確立しています。現在は圏域の17市町村が参画し、4分野をテーマに圏域市町村で連携した取組について検討しています。

市は人口動態はボールパークの移転が決定した平成28年から転入超過の状況が続くなど、機運の高まりを見せ、すでに開業によって新たな賑わい拠点による交流人口の増加に寄与しているボールパークですが、市は、今後はその効果がさらにまちづくりの様々な分野に波及していくことを期待しています。

**今後の展開**

ボールパークへのアクセス拠点となるJR北広島駅西口の活性化を株式会社日本エスコと官民連携を進めており、駅前広場が再整備されたほか、今後は未利用市有地を活用した居住空間、ホテルや飲食店を含む商業施設、子育て支援施設や交流広場を整備するなど、駅周辺の魅力と価値を高め、賑わいと交流を生む拠点等を新たに形成するなど、まさに「北広島の新時代」を見据えたまちづくりを進めていきます。

# 『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



▲会場となったオホーツクミュージアムえさし。「ふるさと教育」推進プロジェクトと連携し、ワークショップなども開催している。

宗谷編

枝幸町



なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和4年11月22日訪問

## 枝幸町「ふるさと教育」推進プロジェクト編

今回まずご紹介するのは、高校生を地域コミュニティや地方創生に活力を与える重要プレイヤーとして育成を図る、枝幸町「ふるさと教育」推進プロジェクトです。

枝幸町では、急速な少子高齢化などにより教育環境にも影響が現れ、町外都市部への進学により保護者を伴っての世帯転出などから町内唯一の普通科高校である道立枝幸高校の将来的な存続が大きな課題となりました。

そのような中、令和元年度に枝幸高校と地域が連携して、地域創生に活力を与える重要なプレイヤーである高校生の育成に向け「学力向上」と「ふるさと教育」の推進によって地域とのつながりを強く持ち、地域の産業や経済を支える人材育成を図る「ふるさと教育」推進プロジェクトを立ち上げ、将来の地域人材を育成する取組を進めています。

取組の一つとして注目されているのが、令和3年4月に開設した公営塾です。塾長は、もともと東京の学習塾で教室長をしていた齊藤歩さん。地域おこし協力隊として着任し、高校生を対象に公営塾を始めました。

「これからより不確実で難しい時代を子ども達は生きていくと思うので、子ども達には、不確実で答えがない、よくわからないところを面白がってくくれるような逞しさを身に付けてほしい」と齊藤さんは話します。

塾は無料で、枝幸高校の全ての生徒が利用できます。公営塾は、学力向上だけでなく、枝幸町の魅力や誇りを再確認する機会も提供しています。実際に、公営塾では、学校の授業のようなものではなく、英文かるたや英語のすごろくなどを通して、勉強する楽しさや学ぶ意欲を高校生の内側から喚起するような取組や将来の枝幸を背負って立つような人材の育成を目的に、地域の方々にゲスト講師として授業を行うなどキャリア教育の取組も行われています。

枝幸町の公営塾のような地域の資源や人材をいかし、地域の未来を担う若者たちの力を引き出す取組が広がることを期待しています。



▲ 枝幸町公営塾Facebook

塾では、個別学習指導による学力向上のみならず、キャリア教育などを通じたふるさと教育も展開されている。



▶ 懇談時の様子

### 当日の知事の言葉から

社会に出ると、自分が生まれ住んでいた地域がどういうところなのか、町内に住んでいた時以上に聞かれることが多くなります。町の誇りをお話できるというのは本当に素晴らしいことです。こうした、高校生をキーププレイヤーとして巻き込み、地域の活性化に一役買ってもらう取組は、郷土愛の醸成や将来の担い手確保にもつながるものだと思います。

なおみちカフェ（枝幸町編）の動画はこちらからご覧いただけます。  
(YouTubeチャンネル)





▲ 令和3年4月に「総合学科」として開校した北海道大空高等学校。自分の興味ある科目や進路に合わせた科目を選択して学ぶことができる。



## オホーツク編

令和5年1月24日訪問

# 北海道大空高等学校 編

次に、大空町の全日制総合学科の町立高として、道内はもとより全国から生徒が入学している大空高等学校についてご紹介します。

令和3年4月、大空高校は、道内初の道立高と町立高を統合し、新設の町立高等学校として、29名の新入生を迎えて開校しました。

民間出身者を校長に招き、地域資源をいかした授業や情報通信技術（ICT）を活用したユニークな教育を行っています。

町は、大空高校を町総合戦略において地域振興の核として位置付け、地域全体で町の創り手を育成することを目指しています。

生徒の皆さんが自ら考え主体的な学びを育むことを教育目標としており、生徒自身が主体となつて考えるように細かい校則は無く、総合学科であるため選択教科も多く自分で進路に応じた授業を受けていきます。

探求力を育むため、探求的な学習の時間においては、通常より単位数を増やし、生徒が自身の興味や関心によってテーマを決めて、情報を集め、課題を解決するための考察、実践を行う授業を展開しています。

関係人口創出をテーマに、生徒が地域の方々とお会いして聞いた地域課題の問題解決に、高校と民間企業、町が一緒になって取り組み、町長や町民などの前で政策提言を行うなど、人づくりとまちづくりの一体化を目指しています。

生徒同士の学び合いの機会を増やすため、一斉授業を改め、複数担任制の導入や定期テストの廃止など、新しい観点により、校長を中心に学校改革を推進しています。

学習以外にも生徒の興味や関心を促すため、生徒が企画するボランティア活動やレモネードの販売による小児がんのための寄付、生徒達が運営する高校生力フエの企画も進められています。

また、令和5年4月に供用開始した高校の寄宿舎機能と地域住民や有識者との交流機能を併せもつ施設を整備。生徒の進路に合わせた学習をサポートする町公設塾の教室や地域交流拠点として活用しています。今後、町民と高校生との交流を深めるための住民支援組織の設立に向けた準備を進め、全国の生徒から魅力ある学校として選んでもらえるよう魅力化プロジェクトを進めていく予定です。

また、令和5年4月に供用開始された寮の外観イメージ

▼令和5年4月に供用が開始された寮の外観イメージ



### 当日の知事の言葉から

高校の存在というのは、地域の大きな一つの機能です。それぞれ首長の皆さんと教育部局が連携し、地域と協働して色々なことに取り組んでおり、特色のある教育が行われています。町全体を学びのフィールドとして、教育と地域づくりを融合させた素晴らしい取組であり、これからも地域の未来を担う人材の育成に取り組んでいただきたいと思います。

なおみちカフェ（大空町編）の動画はこちらからご覧いただけます。  
(YouTubeチャンネル)

